



# Annual Report 2018

認定 NPO 法人 FaSoLabo 京都

2018 年度 事業報告書

## もくじ

FaSoLabo 京都の事業・活動	… 3 P
社会的理解	… 4 P
食物アレルギー相談援助研究会	
オープンキャンパス	
つどいの広場	
ファンドレイジング	
SNS.HP	
講師・講演	
調査・研究(WAM)	
当事者支援	… 1 8 P
ニュースレター	
食物アレルギーサポートデスク	
防災・減災	
支援者支援	… 2 2 P
アレルギーの学び舎	
アレルギー大学	
組織	… 2 6 P
理事会・事務局	
中長期計画	… 2 8 P
2018 年度財務諸表	… 3 0 P



## 理事長 ごあいさつ

いつも、私たち FaSoLabo 京都の活動を支援くださりまして、ありがとうございます。

2018 年度の事業報告をお届けします。

本法人は、2005 年 4 月に任意団体としてスタートして以来、多くの方々に支えられて、食物アレルギーの子どもと保護者や家族を支える活動に取り組んで来ました。2014 年度からは、「地域子育て支援拠点事業」による「常設の居場所」として、地域の子育て世帯との接点や社会的理解の拠点としての活動を重ねてきました。昨年度は、法人名称を「アレルギーネットワーク京都ぴいちゃんねっと」から「FaSoLabo 京都」に変更し、新たなスタートを切ったところです。これまでの実績を踏まえつつ、そして何より支えてくださった皆さんの思いを継承しながら、様々な事業に取り組んでいく所存です。今年の 3 月には「食物アレルギー相談援助研究会」の主催で、「食物アレルギーシンポジウム in 京都 こどもがまんなか～みんながみんなの応援団～」を開催し、多くの方々にご参加頂きました。

これからも、食物アレルギーをもつ子どもと家族が安心して暮らせる環境づくり、そしてひとり一人の子どもが健やかに育つ、住みよい地域や社会づくりに向けて、取り組んでいきたいと思っております。

皆さまの一層のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

2019 年 3 月

認定 NPO 法人 FaSoLabo 京都

理事長

空閑 浩人

## FaSoLabo 京都 の 活動理念

1. 食物アレルギーの子どもとその家族の QOL（生活の質）の向上
2. 食物アレルギー そしてその子どもや保護者の生活や思いの周知

食物アレルギーという言葉は、今では知らない人も少なくなりました。

しかしながら、食物アレルギーについての正しい知識や社会的背景については、十分周知されているとはいえません。生活面や精神面への支援の体制は、現在いずれの社会制度の中にも、もりこまれておらず、社会的排除の状況にあります。食物アレルギーの子どもを抱えた家族には、その家族にしか解らない悩み・苦しみがあるのです。

そこで私たちは、広く社会に食物アレルギーのこと、食物アレルギーの子どもや家族の生活や思いを知ってもらうことで、当事者の生活の質の向上を図れることを目指して事業・活動を行っています。

### 事業・活動

## FaSoLabo 京都 へ

「Fa」 は food allergy（食物アレルギー）

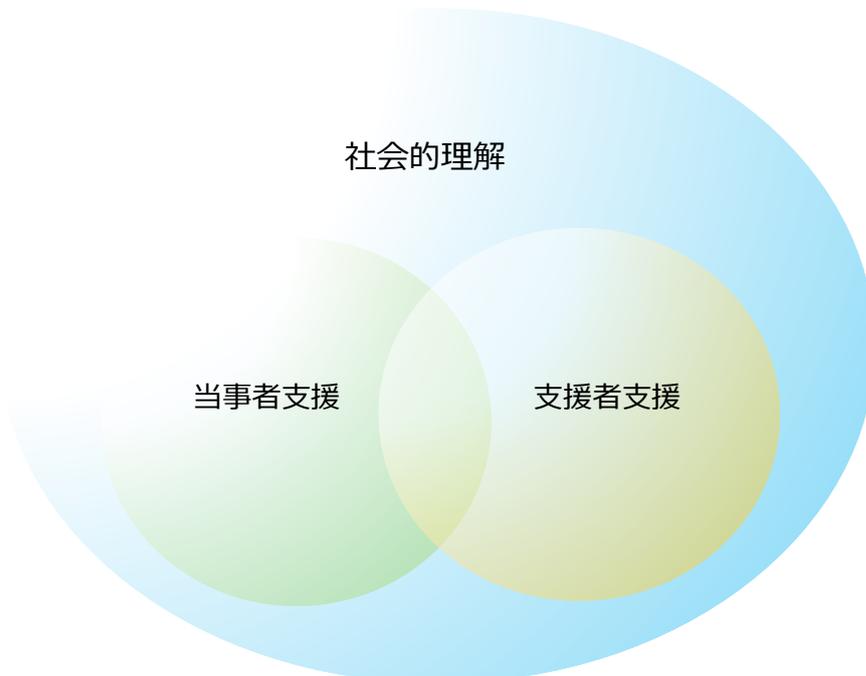
「So」 は social work（ソーシャルワーク）・sower（種をまく人）

「Labo」 は Laboratory（研究所）

新法人名称には、食物アレルギー支援の将来へのたくさんの思いや願いが込められています。

### 「共に」考え・変えていく活動

食物アレルギーの子どもや家族、専門医・エドゥケーター等医療関係者、社会福祉士等ソーシャルワークの専門家、子育て支援者など多様なステークホルダーが、地域社会を「共に」考え・変えていく活動を当法人の活動主体であることを中長期計画として明確化しました。



私たちは、活動理念に基づきミッション達成のために、社会的理解・当事者支援・支援者支援の3つの柱で事業・活動を実施しています。それぞれの事業は、個々に実施するのではなく、相互に関わりあいながら進めています。

# 1 社会的理解

- 食物アレルギー相談援助研究会
- オープンキャンパス
- つどいの広場
- ファンドレイジング
- SNS.HP
- 講師・講演
- 調査・研究(WAM)

## 共に考え・変えていく

当法人の様に支援対象者に明確に「当事者」が存在する場合は、その当事者も事業・活動の主体として「参加」できる機会を創出することが、とても大切です。

地域社会を主体的に築く創造性のある当事者、アレルギー専門医・小児アレルギーエドゥケーター等医療関係者、社会福祉士等ソーシャルワークの専門家、子育て支援者などからなる相談・援助について研究する「食物アレルギー相談援助研究会」の新規事業を開始しました。

今後、当法人の主幹事業となり、多様なステークホルダーが、地域社会を「共に」考え・変えていく活動を実施します。

### ●食物アレルギー相談援助研究会の運営委員(五十音順)

青山三智子：京都府こども発達支援センター診療課長

日本アレルギー学会専門医

上島 唯：京都第2赤十字病院医療ソーシャルワーカー

社会福祉士

上原 久輝：田辺中央病院小児科医員

日本アレルギー学会専門医

空閑 浩人：同志社大学社会学部教授、社会福祉士

楠 隆：滋賀県立小児保健医療センター

小児科主任部長兼診療局長

日本アレルギー学会指導医・専門医

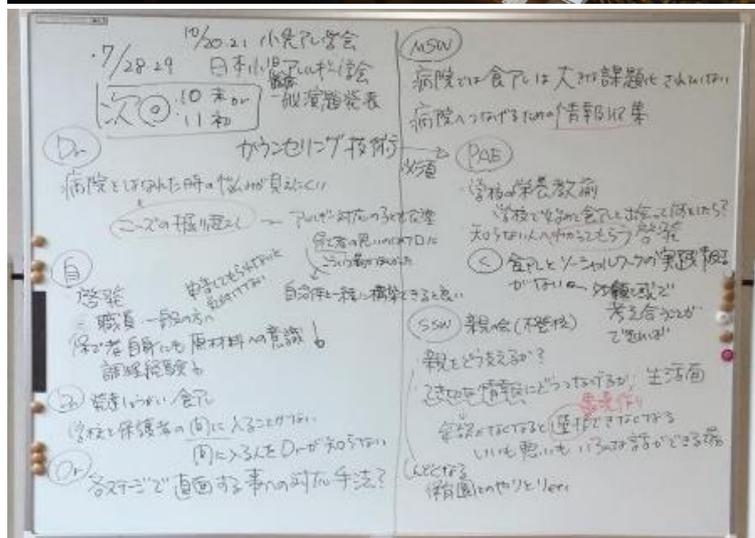
京都大学医学部臨床教授

笹畑美佐子：滋賀県立小児保健医療センター看護師

小児アレルギーエドゥケーター

中村 有美：大阪市スクールソーシャルワーカー

社会福祉士



### ●委員会の開催

○第1回委員会（2018年3月18日）

目的：委員の理念共有、京都府及び京都市の食物アレルギーへの取り組み状況の把握など

・京都府の現況においては、京都府健康福祉部こども総合対策課子育てピアサポートセンターの担当課長が、京都市の現況においては、京都市子ども若者はぐみ局子ども若者未来部母子保健担当部長から資料の配布と説明をしていただきました。

○3者会議（2018年8月12日）

出席：楠隆・空閑浩人・小谷智恵（事務局）

目的：第2回委員会の実施に向けての骨子作り

○第2回委員会（2018年9月24日）

目的：人材育成事業と事業のアウトリーチの検討など

・人材育成においては、「子育て支援者」とし、主に地域子育て支援拠点事業に取り組む者を対象としました。

・アウトリーチの場として、調査報告、アレルギー疾患対策基本法の勉強会と共に「生活モデルでの食物アレルギー支援」のシンポジウムの開催を決定しました。

○第3回委員会

（2019年1月26日）

目的：2019年度人材育成の講座の検討など

## プレ企画 相談事例検討会の実施

10/20 14:30~17:00

同志社大学 室町キャンパス 参加 37名

アレルギー大学（P24~25 参照）の上級クラス「相談事例の実際」を、研究会が今後実施する「相談事例検討会」のプレ事業としてオープン開催しました。

参加者が日ごろから受けている相談（子どもの受け入れ側）・してきた相談（保護者）を自ら発表いただき、参加者全員と当法人の理事である空閑浩人先生・京都市保育園の園長や児童発達支援施設の施設長を歴任された辻益美先生・アレルギー専門医の青山三智子先生にアドバイザーとして参加していただき、一緒に一つ一つの事例について検討しました。

参加者は、食物アレルギーの子どもの保護者、保育園や幼稚園の保育士・教諭、給食センター職員、病院職員など多様なセクターの方たちであったので、その相談内容も様々でした。しかしながら、いずれの相談内容も、保護者や子どもへの「気持ちへの寄り添い」への難しさが共通であったように思います。



## 卵分離研究実験

2/8 10:00~13:00

京都女子大学栄養クリニック 参加 18名

木戸詔子先生の「卵白分離」研究体験をしました。この研究体験は、当法人の会員の方からの要望で実現しました。

木戸先生の研究・指導に従って、卵白と卵黄の分離を4班に分かれて行いました。

食塩水での卵黄の洗浄や、リードペーパー上に卵黄を転がしていく各段階で、徐々に卵白の分離が進んでいくことが目で見て分かりました。

この日は集めた卵黄を活用し、卵黄のみのオムライスを作りました。



※木戸先生の栄養学研究では、1/1,000の単位まで卵白混入率をはかることができているそうです。

しかしながら現在、アレルギー関係の医療分野の学会では、卵白アレルギーの子どもへのこの卵白分離を行った卵黄の安全性についてはまだ証明・言及されていません。

従って、分離した卵黄が、卵白アレルギーの方への安全性を確約するものではありませんのでご注意ください。

将来、医学的にも証明されれば、卵黄のお料理の幅がとても広がる可能性を感じる体験となりました。





## 食物アレルギーシンポジウム I N 京都

～こどもがまんなか みんながみんなの応援団～ (★)

3/16 11:00~17:00 (交流会 17:00~)

同志社大学今出川キャンパス 参加 102名

生活面・メンタル面に視点を当て、「講師と受講生」というような一方的な関係ではなく社会全体で食物アレルギー支援を行っていく仕組みづくりを考えることを目的として開催しました。当日は、沖縄・広島・東京など遠方からも参加いただき、相談援助研究会について多くの方に周知・共感していただくことができました。

「みんながみんなの応援団コーナー」として食物アレルギーに関わる43の個人・団体、企業様に食物アレルギー対応商品の試食や展示、パンフレットの配布などブース出展をしていただきました。

当法人からは、毛糸で作るブルーパンプキンのキット 50 セットをボランティアにより説明・配布し、「ブルーパンプキンプロジェクト活動」として伝えました。

企業は、当事者や支援者の声を実際に聞くことができたり、商品を紹介する機会にさせていただきました。また、個人や団体には、シンポジウム後に横の繋がりがで活動が広がりました。個人・団体・企業共に互いが繋がる場を求めていることが分かり、食物アレルギーを社会全体で支える仕組み作りの一歩になりました。



(★) のあるイベントはWAM調査対象事業です。

WAM調査について、詳しくはP16~17をご参照下さい。

## ☆プログラム1 「子育て支援からの食物アレルギー支援」調査報告

演者：栗絵美（認定NPO法人FaSoLabo 京都）

【プロフィール】 当法人の事務局スタッフ。サポートデスクやつどいの広場（厚生労働省地域子育て支援拠点事業）など、法人全体の業務を担当。2016-2017年度にかけて京都府内で実施した、子育て支援からの視点での食物アレルギー支援の調査結果を報告します。

## ☆プログラム2 「アレルギー疾患対策基本法」施行までとこれからと

演者：長岡徹氏（NPO法人アレルギーを考える母の会事務局長・代表理事）

【プロフィール】 2015年に施行されたアレルギー疾患対策基本法の制定を提案して法案を起草、日本アレルギー学会の西間三郎・元理事長らと連携しながら成立を実現した。その施行までの背景や今後の展望などをお話しくたいます。

## ☆プログラム3 シンポジウム「食物アレルギーのケアマネジメント」

座長：楠達氏（日本アレルギー学会指導医・専門医、滋賀県立小児保健医療センター小児科主任部長兼診療部長、京都大学医学部臨床教授）

【プロフィール】 一貫して小児アレルギー分野の診療と研究に携わり、多職種によるチーム医療を実践。2017年には第34回日本小児難治疾患・アレルギー疾患学会（現・小児臨床アレルギー学会）大会長を務めた。

空閑浩人氏（同志社大学社会学部教授、社会福祉士）

【プロフィール】 身体障害者福祉施設の入職をきっかけに、障害者のノーマライゼーションなどに取り組み、多くの社会福祉施設や（公財）日本社会福祉士会などの理事や委員長などを歴任。2013年よりFaSoLabo京都の理事長、食物アレルギー支援へ福祉の視点を提言。

演者：笹畑美佐子氏（滋賀県立小児保健医療センター看護師、小児アレルギーエドゥケーター）

「全国初！医療スタッフが立ち上げたアレルギー対応子ども食堂スマイルシード ～みんなで食べる楽しみと繋がる喜び～」

【プロフィール】 PAEとして病院勤務・各地域での食物アレルギー研修・講座の講師を勤める。2017年には、近畿一円の医療機関で働くアレルギー専門看護師・管理栄養士が中心となる、全国初の医療スタッフによるアレルギー対応子ども食堂スマイルシードを立ち上げた。

演者：上原優子氏（大阪大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター 医療ソーシャルワーカー）

「食物アレルギーの子どもへの働きかけの工夫」

【プロフィール】 子どもの心理支援や発達支援が専門。三重県津市病院勤務時には、精神疾患の患者や家族の支援を担当し、地域医療にも携わる。学校給食「子どもの心を育む」と題してエッセイを毎月連載中。

演者：後藤純子氏（京都府教育庁指導部保健体育課 指導主事）

「『学校等における食物アレルギー対応の手引き』について」

【プロフィール】 特別支援学校、小学校の栄養教諭を経て、現在は同課の指導主事として学校給食・食育を担当。2016年度に作成された上記手引の策定に関わった。同課では2018年度には食物アレルギーに対する生活面での配慮について、学校生活を共に過ごす「周りの児童生徒」の理解を深めるため作成中。

演者：古川真弓先生（東京都立小児総合医療センター医員、日本アレルギー学会専門医）

「食物アレルギーのマネジメント ～チーム医療～」

【プロフィール】 食物アレルギーの子どもや保護者に寄り添いながらの楽しい診断・治療を実践。2015年からクリニックでの診療を兼務し専門病院だけでなく、地域のアレルギー診療も行う。調市の給食時の誤食事故後は、定期的に市のアレルギー相談事業に携わり、赤澤晃部長のもと「東京都食物アレルギー緊急時対応マニュアル」作成の中心を担った。



### みんながみんなの応援団

#### 出展個人・団体（順不同・敬称略）

NPO 法人日本アトピー協会／社会福祉法人ゆりかご福祉会ゆりかご WECしおん／ヤミーちゃんプロジェクト／きむらかざよ／こめこ舎／ブルーパンクプロジェクト／ばーばの手／アレルギーっ子の旅する情報サイト CAT／すぎなみ食物アレルギーの会／コトコト・きっちゃん／NPO 法人亀岡子育てネットワーク／NPO 法人アトピっ子地球の子ネットワーク／京都子どもの食研究会／西京アレルギーっ子の会／NPO 法人アレルギーを考える母の会／LFA 食物アレルギーと共に生きる会／スマイルシード

### みんながみんなの応援団

#### 出展企業（順不同・敬称略）

(株)永谷園ホールディングス／トニーチ(株)／第一屋製パン(株)／ミニョン手作り工房カワムラ／辻安全食品(株)／マリンフード(株)／アルファー食品(株)／エスピー食品(株)／(株)創健社／(株)タカキベーカー／希望食品(株)／熊本製粉(株)／(株)ジャルバック／(株)シャトレゼ／オタワクソース(株)／まつお小児科アレルギークリニック／宮本ファーム（米とやさいの食工房）／中野産業(株)／ケンミン食品(株)／日本ハム(株)／イオントップバリュ(株)／まつもとクリニック／石井食品(株)／木の丸洋菓子店／尾西食品(株)／ハウス食品(株)

# 1 社会的理解

食物アレルギー相談援助研究会

→ オープンキャンパス

つどいの広場

ファンドレイジング

SNS.HP

講師・講演

調査・研究(WAM)

【協賛企業】(順不同 敬称略)

石井食品(株) 日本ハム(株)

中野産業(株) ハウス食品(株)

アルファー食品(株) ケンミン食品(株)

(株)ダイナック



## 活動報告と新たな繋がりを目指す場

オープンキャンパスは、2017年度から始めた取り組みです。

2016年度までは、正会員のみが参加できる閉じられた場だった総会を、

・社会に広く、食物アレルギーの子どもや保護者の生活について知ってもらう

・FaSoLabo 京都の活動について多くの人に関心を持ってもらう

ことを目的に活動報告会とオープンキャンパスを総会の日に加えて実施しています。

活動報告会では、初めて FaSoLabo 京都を訪れた方にも分かりやすく活動内容をお伝えすること、またスタッフだけではなく協力してくださった会員やボランティアにも発言してもらい、「共に」活動していくことを意識しています。



## 子ども達に大人気のはなはなぷーさんマジックショー

みんなと一緒に楽しめる場作りも大切にしています。

## アレルギーフリーのランチプレート

「みんなと一緒に同じ物を食べる」という機会が少なくなりがちな食物アレルギーの子どもですが、この日はみんなが安心して食べることができます。アレルギーに対応した食品の紹介も兼ねており、少しの配慮と工夫で「みんなと一緒に」が実現できることもお伝えしています。

## アレルギーフリーのチョコレートファウンテン

チョコレートファウンテンは、特別感のあるデザートです。しかしながら一般のチョコレートファウンテンのチョコレートは乳が使われているので乳アレルギーの子どもは食べることができません。ここでは、アレルギーフリーのため、乳にアレルギーのある子ども達も安心して食べる事ができます。「食べられる」というだけでなく、「みんなと一緒に楽しい場に参加できる」ことこそ、大切な事です。

## 子ども企画 お菓子屋さん&景品付きゲーム屋さん

春休みに「子ども会議」と称して、食物アレルギーの有無に関わらず、オープンキャンパスの子どもスタッフを10人前後募集しています。

子どもたちだけでどんなお店をするか、どんなお菓子を販売するか、話し合いを重ねています。

子ども達にチャレンジする機会を提供すること、保護者と離れて友達とアレルギーフリーのおやつを試食する機会を作ること、アレルギーフリーのお菓子の選択肢を知り、それをオープンキャンパスに訪れた多くの人に知らせることなどを目的に取り組んでいます。

また景品付きゲーム屋さんでは、みんなが一緒になってお客さんの為に楽しいゲームのルールを考え、備品も手作りしています。

この経験を通して、自分のアレルギーについて友達に伝えたり、不安なことを自分の言葉で保護者以外の大人に確認する姿など、頼もしい様子を見ることができます。



# 1 社会的理解

食物アレルギー相談援助研究会

オープンキャンパス

→つどいの広場

ファンディング

SNS.HP

講師・講演

調査・研究(WAM)



## 地域社会との接点

2015年3月より京都市の広場事業の委託を受け、食物アレルギーに配慮したつどいの広場（厚生労働省事業）として週5日開所しています。2018年度は延584組1,675人の利用がありました。

食物アレルギーの子育て世帯と地域の子育て世帯の接点として、初回来所者への施設説明、イベント後の交流タイムでのアレルギーフリーのおやつ試食、併設のサポートデスクでのアレルギーフレンドリーなイベントへの参加などを通して、食物アレルギーへの垣根が取り除かれるように努めています。

中京区子育て支援ネットワークにも参画しており、地域全体の子育て支援機関に活動を知ってもらうことにより、食物アレルギーについて相談できるつどいの広場として周知されてきています。

子育て中の保護者が、漠然と感じている食物アレルギーについての不安や軽微な相談を気軽に話せる場として、正しい理解と情報共有に繋がっていると感じています。

▲手袋シアター 15回



▼ベビーヨガ 12回(★)

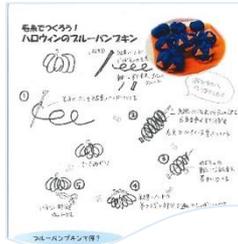
▲ハグモミ 4回(★)



## ベビーハロウィン 乳幼児親子対象 (★)

10/29 開催 参加 13 名

ハロウィンで食物アレルギーの子どもには、お菓子のかわりにおもちゃ等を配る「ブルーパンプキン」の取り組みを紹介しました。イベントに先立って、受付カウンターに毛糸で作る青いかぼちゃを飾り、来所者に手作りをお誘いしつつ、アピールしました。当日は写真フレームづくりと青いかぼちゃのマスコットも作りました。お菓子ので行事では、食物アレルギーの子どもは参加し辛いことを知ってもらえる機会になりました。



## ハンドベルクラブ 小学生～保護者対象

毎月 2 回 (木曜日)

子育てをがんばっている保護者が、赤ちゃん連れで参加でき、お互いの子どもを見守りながら楽しくリフレッシュできる機会になっています。つどいの広場での取り組みをオープンキャンパス、クリスマス会など、サポートデスクで発表する機会を創ることで、両者の架け橋となる活動となっています。



## ボランティアスタッフ

2018 年度は、活動理念に共感するお母さんボランティアが 3 名、子ども連れで活躍してくれました。

子どもに食物アレルギーのない保護者の視点、若い世代ならではのスキルやアイデアで新しい企画が生まれています。ボランティアスタッフはつどいの広場・サポートデスク両者のパイプ役にもなっています。



## 出張つどいの広場

毎月 2 回 (木曜日) 全 21 回/中京区社会福祉協議会

2016 年度より地域子育て支援充実事業として開催しています。広々とした開放的な空間が人気で、毎回 4～8 組の参加があり、より多くの乳幼児の子育て世帯にぴいちゃん存在を知ってもらえる機会になっています。スタッフ手作りの手袋シアター、抱っこの仕方、ハグモミでほぐしっこなどを随時織り交ぜながら、利用者が自由につどい、保護者同士の交流が深まっています。

気軽に話せる雰囲気から、食物アレルギーへの不安やスキンケアについても声に出しやすい場になっています。



(★) のあるイベントは WAM 調査対象事業です。

WAM 調査について、詳しくは P 16～17 をご参照下さい。

# 1 社会的理解

食物アレルギー相談援助研究会  
オープンキャンパス  
つどいの広場  
→ファンドレイジング  
SNS.HP  
講師・講演  
調査・研究(WAM)

## 寄付活動を通して、社会に訴える

ファンドレイジング（寄付）活動は単に活動資金調達だけでなく、寄付を募る過程で、社会の課題を示し、理解と共感をいただき、社会課題の解決にむけ支援者を増やしていくために必要な活動です。2018年度は企業の社会貢献活動とマッチングし、活動資金調達の枠を超え、食物アレルギーやその子どもと家族の生活や思いの周知に視点を置いた寄付活動を行いました。

一般企業と協働することで、職員にとっても多くの方に活動の周知を実感できる活動になりました。

それぞれの活動でいただいた寄付金は、サポートデスクの事業や物品購入で役立たせていただいています。

## イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン

イオン京都五条店／7・10・1月の11日/1時間  
金額 23,300円

イオンの社会貢献活動の一つ「幸せの黄色いレシートキャンペーン」に地域のボランティア団体として五条店に団体登録しています。毎月11日に実施されるイエローレシートキャンペーンへのボランティアを募り、2018年度は3回、延3名の方と店頭PR活動を行いました。お買い物客の方にレシート投函を呼びかけることで、法人の存在と活動を周知する機会にもなりました。

寄付金は本箱やおもちゃを購入し、来所する子ども達にとって居心地の良い環境づくりに役立てる予定です。



## 社会貢献教育でのプレゼンテーション

7/17 嵯峨野高等学校

社会課題やその解決に取り組む NPO について理解を深め、NPO でお金がどのような活動に使われ、役立てられているのかを知り、複数の NPO から寄付先を選ぶという、社会貢献について学ぶ授業に参加しました。

当法人も NPO の一つとして事業目的、取組み、寄付がどのように使われているのかをプレゼンテーションさせていただきました。



## JAMMIN 合同会社とのチャリティー T シャツ販売

8/20~8/26 金額 46,600 円

衣料ブランドの JAMMIN 合同会社との協働により、チャリティー T シャツ・トートバッグの販売を行いました。ご購入いただくと、売上の一部が当法人の活動に寄付される仕組みです。

当法人ではこれまでになかった新しい寄付の形ですが、たくさんの方にご協力いただきました。この寄付は 5 月に開催するオープンキャンパスに使用させていただきます。



## H2O サンタ NPO フェスティバル

1/16~18 10:00~18:00

阪急うめだ本店 9 階祝祭広場 金額 269,868 円

主催者の「一般社団法人 H2O サンタ」は地域社会にチャリティーの文化を創造することを目的に活動している H2O リテイリンググループの社会貢献団体です。

参加の他団体と共に、ブースでニュースレターやパンフレットを配布したり、チャリティー T シャツ・トートバッグと食物アレルギーお知らせバッジを販売して、一般の来場者の皆さんへ活動の説明をしました。トークイベントでは日頃の活動を紹介しました。

オープンな場所での大きなチャリティーイベントに参加することで、他団体や一般の方に FaSoLabo 京都を知っていただくことができました。スタッフにとっても、社会的弱者の課題解決のために活動する団体であることを、より強く自覚する機会になりました。

この寄付で 2019 年度のサポートデスクで実施する全てのイベント・講座の参加費が無料にすることができます。(フレンズ会員・正会員)



# 1 社会的理解

食物アレルギー相談援助研究会  
オープンキャンパス  
つどいの広場  
ファンドレイジング  
→ SNS.HP  
講師・講演  
調査・研究(WAM)

## 情報発信・つながる

イベントの告知や報告、食物アレルギーの支援活動をする個人や団体の繋がり、情報発信、情報共有を目的としています。

2018年度は、新規事業「食物アレルギー相談援助研究会」のFacebookページを新たに開設しました。

## ホームページ

<http://www.allergy-k.org/>  
法人について（理事会・沿革・毎年の事業報告など）や、全ての事業・活動をご覧いただけます。各種会員のご案内やサポートデスクや京都府内での取り組みの日程・内容なども、ホームページでお知らせしています。

## Facebook

### サポートデスク

<https://www.facebook.com/allergy.kyoto>

### 食物アレルギー相談援助研究会

<https://www.facebook.com/食物アレルギー相談援助研究会>

### つどいの広場

<https://www.facebook.com/つどいの広場>

サポートデスク・相談援助研究会、つどいの広場の日頃の様子や、実施したイベントの報告など、リアルタイムな情報をご覧いただけます。これから開催のイベントなどは、ニュースレターやホームページより早くお知らせをしています。



# 1 社会的理解

食物アレルギー相談援助研究会  
オープンキャンパス  
つどいの広場  
ファンディング  
SNS.HP

→ 講師・講演  
調査・研究(WAM)



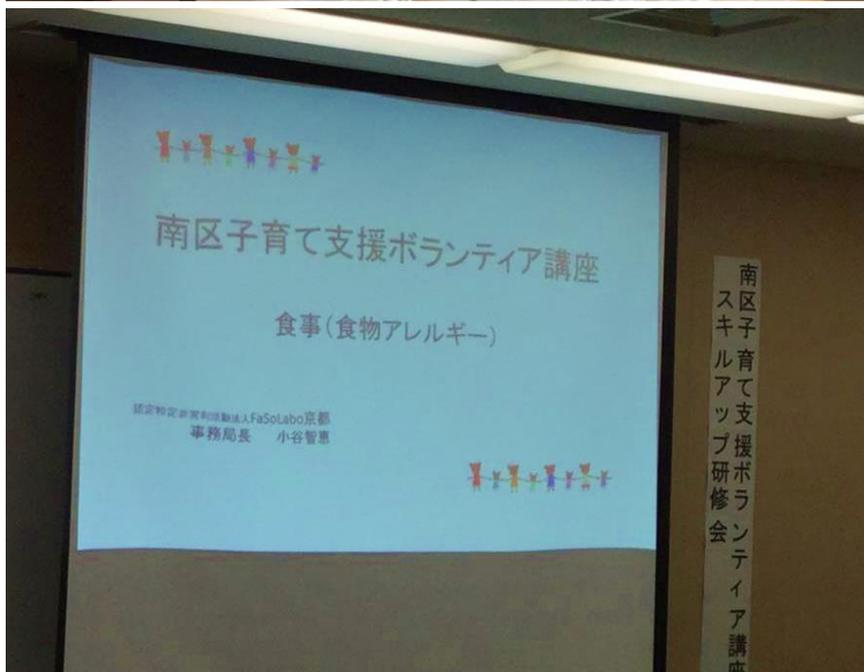
## 生活面・メンタル面の支援の必要性

2018年度は、組織運営や事業についての講演の機会もいただきました。

また、自治体の各委員会の委員や、イベントでの相談コーナー、防災・食育等の各部局主催イベントの監修なども行いました。

## 講師・講演

- 5/15 西本願寺ウイスタリアガーデン 職員研修  
「食物アレルギーの基礎知識」
- 7/11 西本願寺ウイスタリアガーデン 保護者研修  
「食物アレルギーの基礎知識」
- 7/24 阪急阪神未来のゆめ・まちプロジェクト  
ソーシャルラボ「災害時に役立つカレー作り」
- 9/21 南区 子育てボランティア講座  
「食物アレルギーと子育て支援」
- 10/13 栃木県保育協議会県東部地区保育研究会 職員研修  
「食物アレルギーの子どもの受け入れ」
- 1/24 認定 NPO 法人日本 NPO センター  
NPOforSDG's フォーラム 事例発表・パネラー
- 2/6 岸和田市生涯学習センター 子育て支援者研修  
「食物アレルギーと子育て支援」



## 出展等

- 7/4 中京区子育て支援センター  
おいでよびびよらんど 赤ちゃんコーナー
- 11/21 深草地域子育て支援ステーション  
第35回ふれあいらんど 食物アレルギー相談コーナー

## 委員会等

- ◎京都府 食物アレルギーの子京都おこしやすプロジェクト委員会  
1/23
- ◎京都府教育委員会 京都府の学校等における食物アレルギー対応委員会  
4/13・8/1・10/26・1/11
- ◎木津川市 山城南子育て支援関係者連絡協議会  
8/31・12/17
- ◎中京区子育て支援ネットワーク会議  
4/13・5/11・6/8・12/14・2/8

## 監修等

- 9/5 (財)日本財団  
食物アレルギーへの支援に関する基礎調査
- 9/26 大阪市立大学大学院生活科学研究科  
食物アレルギーの子どもの支援



# 1 社会的理解

食物アレルギー相談援助研究会  
オープンキャンパス  
つどいの広場  
ファンディング  
SNS.HP  
講師・講演  
→調査・研究(WAM)



## 居場所を通じた子育て・子育て環境向上事業

当法人の「食物アレルギーの子どもと保護者が安心・安全に利用でき、生活面や精神面への適切な相談援助ができること」を目的に居場所作りを行う事業が、独立行政法人福祉医療機構（WAM）の2018年度 WAM 助成モデル事業の対象となりました。

この助成を受けて、つどいの広場やサポートデスクで実施している催しで、食物アレルギーへの取り組みとその心象についてアンケート調査を行いました。

※独立行政法人福祉医療機構(WAM)・・・福祉の増進と医療の普及向上を目的として設立。



### 〈調査方法等〉

1. つどいの広場：ベビヨーガセラピー、はぐもみ  
ベビハロウィン  
最後に交流タイムを設けて、食物アレルギー対応のお菓子を試食しながら、簡単な食物アレルギーについてのお話
2. 子ども対象：地蔵盆、クリスマス会  
アレルギーフリーのお菓子・昼食・ケーキで実施
3. 保護者対象：レシピ紹介を7品目+大豆を使わない食材で実施
4. 食物アレルギーの子どもの保護者に限定

1、2、3については、食物アレルギーの有無に関わらず誰でも参加できるようにし、食物アレルギー対応についての心象をお尋ねしました。

それぞれの調査の主な結果はP17の通りです。  
詳しくは、別冊の平成30年度社会福祉振興助成モデル事業成果報告書「食物アレルギー児への子育て支援事業」に掲載しております。

## 1) 食物アレルギーへの理解の広がり

つどいの広場での催しの受付の際に食物アレルギーの有無をお尋ねすること（※1）や、入室時に衣服の清掃等をお願いすること（※2）に対して、食物アレルギーのない子どもの保護者にも概ね好意的に受け入れられていました。乳幼児を連れての来所者への負担感を危惧していましたが、当法人職員より食物アレルギー児への安全・安心のためであることを丁寧に説明していることもあってか、その傾向はみられませんでした。

## 2) 食物アレルギーへの関心度の高さ

つどいの広場事業として実施している催しでの食物アレルギーへのアプローチについても、「心配事の一つだった」「相談できる場所があるとわかって安心した」など、乳幼児の心配事のなかで食物アレルギーへの関心はかなり高く、他人事ではなく自分事として捉えられる方も多く存在することが分かりました。

## 3) 相互理解の場

季節のイベントやレシピ紹介の催しでは、アレルギーの子どもの保護者から、「安心して参加できるだけでなく、アレルギーのない人たちに理解してもらえる機会になって嬉しい」と好意的に受け止められていることに当法人としても喜ばしく感じています。一方で、少数ではありますが「アレルギーのない人は参加を遠慮して欲しい」という声があることには、今後も両者が心地良い場となる様に配慮をしていくべき課題として捉えています。

## 4) セーフティーネットの必要性

食物アレルギーの子どもの保護者のみを対象とした親カフェでは、深刻な悩みや、当事者にしか共有できない「思い」があり、「みんなで一緒に」過ごせる場と並行して当事者の「セーフティーネット」の場が必要であることがわかりました。

以上により、食物アレルギーへの支援は当事者だけに求められるセーフティーネットの場と、みんなと一緒に参加できる環境作りの両輪が不可欠であることが見えてきました。

## 学会発表

「子育て支援からの食物アレルギー支援」(★)

7/28 第35回日本小児アレルギー学会

福岡市で開催された学会で、医学生のボランティア小林弘典さんが、2016-2017年度に調査した地域子育て支援拠点事業における食物アレルギー対応の実態等について発表してくれました。

地域子育て支援拠点（つどいの広場）の支援員研修に、食物アレルギーの

研修がなされていないなどの理由で、

- ・食物アレルギー対応にばらつきがある
- ・食物アレルギー対応への標準化の必要性
- ・医療者の介入の必要性

等に言及しました。今後も積極的に学会等での発表を行い、子育て支援の現場での食物アレルギーの取り組みの必要性を提言していきたいと思っています。

▼催し参加申し込み用紙

イベント参加申し込み  
「バビ-ヨガのつどい」 参加費 会員: 500円 非会員: 500円  
日時 2017年 4月 26日(金) 10:30 ~ 12:00

アテンド	会員	保護者氏名	子ども氏名	性別	年齢	連絡先	アレルギー	その他	参加日	参加日
1				男	4歳					
2				女	5歳					
3				男	6歳					
4				男	3歳					
5				女	6歳					
6										
7										
8										
9										
10										
11										
12										

※1 アレルギー情報欄

▼入口の入室時のおやくそく



(★) のあるイベントはWAM調査対象事業です。  
WAM調査について、詳しくはP16~17をご参照下さい。

## 2 当事者支援

→ニュースレター  
サポートデスク  
防災・減災

### 「ひとりじゃないよ」をもっと

ニュースレターは、FaSoLabo 京都の原点事業です。「ひとりじゃないよ」を伝える、食物アレルギーの子どもや保護者との最初の接点であり、大切なピアサポートへの入り口と位置付けています。

食物アレルギーの子どもの保護者が、孤独に悩み「自分はひとりだ」と感じることは、現在でも決して無くなってはいません。これからも、1人でも多くの人にニュースレターに込められた願いを届けたいと思います。

### 2018年度のニュースレターの主な構成

■ イベント報告・・・実施したイベントの内容や写真を掲載し、参加できなかった方にも当日の様子が伝わるようにしています。

■ 今後の予定・・・多くの方にご参加いただけるよう、早めの告知を心掛けています。

■ お医者さんからのお役立ち情報・・・今知っておきたい子どもの病気について、タイムリーに端的にまとめられています。

■ しあわせのみつげかた・・・食物アレルギーの子どもの子育てについて、役に立つのに面白く、ほっこりする大人気漫画です。

ニュースレターは、より見やすく、より思いが届くように、スタッフで意見を出し合いながら、どんどん見直し、改善していきます。

### 今年行ったニュースレターの工夫

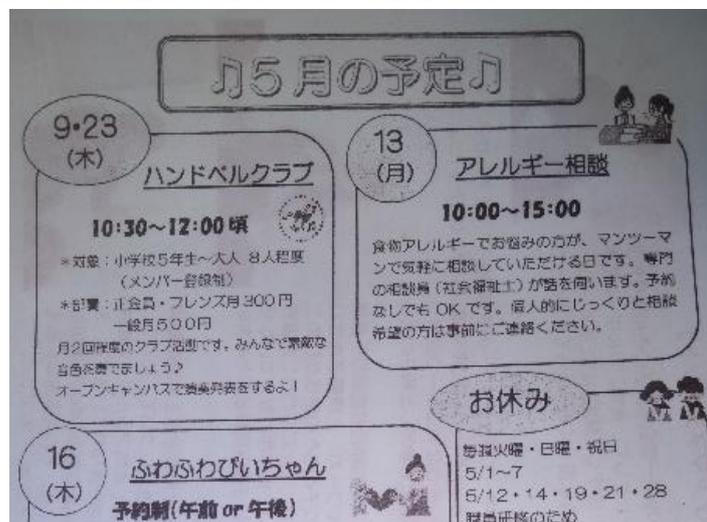
① 2017年度までは月初の発行でしたが、月初から中旬のイベント告知が遅くなるため、月末の発行に変えました。

② イベントの表示を、日時が分かりやすいように大きく見やすく変更しました。



今月号よりびいちゃんホットとニュースレターの発行日が月末に変わりました!!

翌月のスケジュールチェックが便利になりました!!



2018年度は  
No 1 2 3 ~ No 1 3 5 まで  
特別臨時号を含む 1 3 号を発行しました。  
会員、子育て支援施設、児童館、保健所等に  
配布しています。



## 親カフェ

### 食物アレルギーの子どもの保護者対象（★）

4/21、5/19、6/9、7/1、9/15、11/17、2/6  
参加 延べ34名 / 各回定員6組程度

「食物アレルギーの子どもの保護者の方と話をしてみたい」

「いろんな話を聞いてほしい」

そんな思いを共有できますように、と始めた保護者交流会。お話のテーマは、その都度交流会の初めに記入していただくインタビューシートの記載内容によって決まっています。

「アレルギーへの考え方がだんだんいい方向になってきて、精神的に楽になった」

「心配事が減り、リフレッシュできました」

参加された方の声からも、同じ立場の方たち同士でお話のできる場の大切さが伝わってきます。

親カフェの時間内は出入り自由で、お昼時にはスタッフの手作りランチやおやつもお出ししています。いつも家族のために頑張る保護者の皆さんには、親カフェでの「誰かに作ってもらったご飯」にも喜んでいただいているようです。



## Ban! ばん! バーン! と伴ごはん

### 保護者対象（★）

7/14、9/19、12/14・15、3/8・9  
参加 延べ71名 / 各回定員6名程度

伴亜紀先生による、参加者は調理しないレシピ紹介と交流が目的の講座です。新しいレシピを知りたいけど、書いてあるものを見ただけでは、コツや手間がわからず作るのに躊躇してしまう。アレルギー対応の食事や家族の食事作りについていつも頑張る保護者の皆さんにとって、サポートデスクはのんびりできる場所になって欲しい。そんな二つの思いを叶える、参加者は見て触って食べるだけ、先生が調理方法をデモンストレーションしながら皆さんの分を全部作ってくださいます。

今年は、「オープン伴ごはん」の日を設け、祇園祭に合わせて7品目不使用の「たこやき」を地域の方たちにも味わっていただきました。また、つどいの広場からの食物アレルギーのない子どもの保護者の参加もあり、両者の相互理解・交流の場にもなっています。



## 地蔵盆 親子対象 (★)

8/9 参加 15名

京都では、お盆明けに子ども達のお楽しみ地蔵盆が各町内で開催されます。袋いっぱいのお菓子やお昼御飯がふるまわれる地域の地蔵盆は、食物アレルギーの子ども達は参加し辛いこともあります。全てアレルギーフリーで実施するので、食物アレルギーの有無に関わらずみんな一緒に楽しむことができます。

地蔵盆ならではの大量珠回しも、西念寺（木津川市）のご住職に教えてもらいながら、みんなで楽しみました。



## クリスマスパーティー 親子対象 (★)

12/22 参加 20名

クリスマスパーティーも、アレルギーフリーで実施します。楽しみの一つとなっているのは、参加者全員で食べるクリスマスケーキです。トッピングも選べるのでワクワク感もいっぱいです。今年も「ケーキを食べるのは初めて」という親子の参加がありました。



(★) イベントはWAM調査対象事業につき、P16~17もご参照下さい。

## 2 当事者支援

ニュースレター  
サポートデスク

→ 防災・減災

### 防災・減災

フレンズ会員お申し込みの時に、緊急時安否確認システムに登録していただく「緊急時お願いカード」と「アルファ化米 1袋」をお渡しし、防災意識を高めていただいています。

2018年度は、大阪北部地震や広島・岡山の豪雨災害が発生しました。会員の安否確認や、被災した現地や後方支援のNPOが立ち上げたスペシャルニーズに関するメーリングへの参加依頼があり、食物アレルギーに関する情報提供を行いました。

広島県三原市の患者家族会には直接電話で連絡を取り合ったり、支援を申し出ていただいた企業と日本小児アレルギー学会の災害支援窓口とをつなげたりしました。



▲緊急時安否登録をされた方にお渡しする「緊急時お願いカード」とアルファ化米

### 3 支援者支援

#### ➔出張アレルギーの学び舎 アレルギー大学

#### 京都府内に支援拠点を創る

2011 年度に京都市内でスタートしたアレルギーの学び舎の目的は「保護者や子どもを受入れる施設の方たちに、食物アレルギーを正しく知ってもらうこと」でした。

2012 年度からは、'出張アレルギーの学び舎'として、「保護者と支援者が共に学び、思いを共有する場」「地域の支援を地域で行える人材育成」

を目的として、京都府内の子育て支援団体との協働で各地で開催してきました。

2018 年度は、京都府の地域力再生交付金を財源として京田辺市・福知山市・亀岡市で、交流会形式で実施しました。

#### 京田辺市

10/27 参加 15組 33名

協働団体：ばーばの手

3年目となる2018年度は、アレルギーフリーのイベント企画運営の実践として、10月に「おいもほり」を実施しました。

おいもほりの為に地元の農家から畑を借り、地域の親子を巻き込んで、苗からサツマイモを育て、土と触れる体験もしました。

京都市内の親子と現地の親子が合流し参加者みんなで自然に触れたり、おいもクッキングを通して、食物アレルギーの有無に関わらず、大人も子どもも「一緒に食べる」ことを楽しみました。決して声高にアレルギーフリーを謳わなくても、さりげなくアレルギーフリーの企画をすることができ、当事者以外の保護者にも食物アレルギーを身近に感じてもらえる機会を作る力が着実にた取り組みになりました。





**亀岡市** 4/23、6/25、8/27、10/22、12/17、2/25

10時半～12時頃 参加 延べ93名

協働団体：NPO法人亀岡子育てネットワーク（ゆりかご広場）

「亀岡でも交流できる場があったらいいのに」亀岡在住の会員の声をきっかけに2017年度の1年間の準備期間を経て、スタートしました。

その会員2名が中心となり、交流会形式で食物アレルギーに対する質問や不安に応えたり、参加者同士の交流を図りました。年間を通して開催したことで、亀岡での食物アレルギーの支援・交流拠点として定着してきました。2019年度も引き続き、実施します。

**福知山市** 12/5、1/16、1/30

10時半～11時半頃 参加 延べ21名

協働団体：NPO法人おひさまと風の子サロン（すくすくひろば）

福知山市でも、2017年度に引き続き開催しました。交流会形式で、食物アレルギーの基礎的なお話や個々の質問に応じていきました。参加者同士の交流も図れ、地元情報の交換の場にもなっていました。2019年度も引き続き、実施します。



### 3 支援者支援

出張アレルギーの学び舎

➡アレルギー大学

#### 食物アレルギーを体系的に学ぶ

アレルギー大学は、2006年に愛知県の認定 NPO 法人アレルギー支援ネットワークが、食物アレルギーの支援者を育成することを目的に始めた事業です。2013 年度に京都での開催を誘致し、事務局を務めています。

受講生は、食物アレルギーの子どもの保護者、保育士、教師、養護教員、給食調理員、栄養士、調理師、看護師、助産師、学生など幅広い職種にわたり、全国から延 240 人が受講しました。

2018 年度は、基礎・初級・中級・上級 16 講座と 4 実習を行い 39 人の方がアレルギー大学の課程を修了されました。

上級講座では、ソーシャルワークの視点での食物アレルギー支援について学ぶ講座を実施しました。

P5の食物アレルギー相談援助研究会「ブレ企画相談事例検討会の実施」についても併せてご覧ください。



▼7/22 エピペン・スキンケア等の実習

▲6/10 離乳食のすすめ方





## 2018 年度講座・実習一覧

【基礎講座】	講師（敬称略）	【初級実習】	講師（敬称略）
アレルギーの基礎 アレルゲンの基本 食育とアレルギー 加工食品の表示の仕組みとアレルゲン表示	田中 香織 成田 宏史 伴 亜紀 佐々木 梓沙	赤ちゃんの口の機能と発達 離乳食のすすめ方  コンタミネーションを防止する調理手順 卵、乳、小麦を使わない料理	松井恭子  梶田 裕 梶田 裕
【初級講座】		【中・上級実習】	
食物アレルギーの臨床（総論） 乳幼児期の栄養と献立 アトピー性皮膚炎 ひやりはと事例から学ぶ安全管理と緊急時対応	上原 久輝 木戸 詔子 松本 哲宜 土屋 邦彦	エピペン・スキンケア等の実習 代替食献立作成演習	吉弘 径示・笹畑 美佐子 伴 亜紀
【中級講座】		【上級講座】	
食物アレルギーの臨床（各論） 気管支喘息、花粉症、ダニアレルゲン 集団生活の食事 アレルギー児の受け入れ	安野 哲也 藤本 雅之 佐井 かよ子 小谷 智恵	食物アレルギーと発達心理 働きかけの工夫 食物アレルギーのソーシャルワーク 最新医療・免疫療法 相談事例の実際	上原 優子 空閑 浩人 青山 三智子 空閑 浩人・辻 益美・青山 三智子



▲6/16 コンタミネーションを防止する調理手順 卵、乳、小麦を使わない料理

# 中長期計画

私たちは、常に食物アレルギーの子どもと家族の支援について、子どもが真ん中の視点にたち、支援のありかたを提案（種まき）する専門家でありたいと思っています。

目標	方針 子どもが真ん中	事業	結果
地域社会を共に考え、変えていく行動を行う	社会的理解	★相談援助研究会	‘教える人⇒学ぶ人’ではなく、‘共に学び合う’場所への転換 子育て支援の視点で支援のあり方を社会全体で考える場ができる
		★つどいの広場	アレルギーの有無にかかわらず集える場所になっている ひろばイベントが、食物アレルギー対応が組み込まれた形で実施される
		オープンキャンパス	法人の事業・活動のアウトリーチの場になっている 子どもの活躍の場が提供される 不特定多数の人にアレルギーを身近に感じてもらえる
		SNSの発信 講演活動	不特定多数の人とつながる場所になっている
		調査・提言	食物アレルギーの子どもの日常生活について知ってもらう 企業や地域に当事者の声が届く
		ファンドレイジング	法人の事業・活動のアウトリーチの場になっている 企業・団体・個人とつながる 食物アレルギーの子どもの生活を知ってもらえる
	当事者支援	ニュースレターの発行	子育て支援の場にニュースレターが置かれている FaSoLabo 京都と保護者の接点になっている
		サポートデスクの運営 (居場所作り)	食物アレルギーの生活面・精神面の相談ができる場所が提供できる 食物アレルギーの子どもの保護者同士がつながれる場所になっている アレルギーフリーの地域行事・社会体験などに参加できる場所である
		災害支援	自助の大切さを伝える講座を開催できる 関連する会議に参加している
	支援者支援	出張アレルギーの学び舎	子どもに関わる人に講座の提供ができる
		アレルギー大学	当事者と支援者が相互の立場や思いを知り合える場所の提供ができる
	組織運営	組織基盤強化	運営に関するスキルを獲得する NPO 法人について知る ありたい姿、目指す姿、私にとっての FaSoLabo 京都を考える 食物アレルギーについての知識・理解を学ぶ場がある ソーシャルワークスキルを学ぶ場がある 社会のしくみ（自自治体等の公的制度など）を知る

★相談援助研究会、★つどいの広場での取り組みは、独立行政法人福祉医療機構の2018年度社会福祉振興助成事業（モデル事業）「居場所を通じた子育て・子育て環境向上事業」に採択されました。

成果	影響
<p>生活面・精神面を支援できる人材の学びの仕組みができる 調査・研究した事象を政策提言へと発展させられる 調査・研究した事象を小児臨床アレルギー学会等で発表できる</p>	<p>食物アレルギーのソーシャルワークの仕組みができる 食物アレルギーのソーシャルワーカーが増える</p>
<p>食物アレルギーを身近に感じる 社会的接点 理解者・応援者が増え、第三者が広くアレルギーを伝える役割を担う 食物アレルギーを自分事としてとらえてくれる</p>	<p>どの居場所もアレルギーフリーになる 食物アレルギーに関わってくれる人が増える 食物アレルギーの有無に関わらずみんなが一緒に過ごせる場所が増える</p>
<p>食物アレルギー支援の過不足を客観的に評価できる 当事者) 自分たちの声が届いた実感を持ってもらえる 支援者) 自分たちができること、すべきこと、しないといけないことに気付いてもらえる 食物アレルギーを取り巻く環境の周知</p>	<p>当事者の主体的活動の場となる 食物アレルギーの子どもと家族の生活の質の向上を共に社会全体で考えられる</p>
<p>‘独りじゃない’ことが、当事者に伝わる 食物アレルギーのピアサポートの入口として問い合わせがくる 親支援・子ども支援としてセーフティーネットの役割が果たせる 保護者にとって息抜きできる居場所になっている 子どもにとって夢や希望が描ける場所になっている 親子にとって安心・安全に過ごせる場所になっている</p>	<p>当事者—社会 双方向への流れができる 当事者への共感が伝わる</p>
<p>講座を開催した団体と参加した個人がつながり共助に発展する 自分たちが居住する地域の防災対策を知り、被災時に備えられる</p>	<p>地域防災対策への波及効果 京都府域の他団体とのネットワーク構築</p>
<p>京都府内に食物アレルギーの支援拠点が 支援拠点同士のネットワークが構築でき、相互に助け合うことができる 食物アレルギーや食事の管理などの専門家の人材育成</p>	<p>FaSoLabo 京都が特別な場所ではなく、あちこちに支援拠点が</p>
<p>事業運営のための課題・目標を共有するための合宿を行える 合宿の時の託児ができる 職員が理事会に出席し、運営について学ぶ機会にする アレルギー大学や学び舎に職員が参加し、食物アレルギーの知識を学ぶ 相談援助研究会に職員が参加し、ソーシャルワークスキルを学ぶ 外部研修へ参加できる体制ができる</p>	<p>皆が柱の組織</p>

## 【理事会】 2018-2019 年度

理事会は、ソーシャルワークの専門家・アレルギー専門医・保育士・税理士・食物アレルギーの子ども保護者など多様な分野の者で組織されています。当法人の理念に基づいて、法人の活動計画や事業予算を策定します。

理事は、専門分野に合わせて、法人の個々の事業への管理監督の役割も果たしています。

監事は、金融関係の専門家に着任いただき活動・運営を精査いただいています。

また 2016 年度からは、認定 NPO 法人となったことから、京都市・京都府の規定により監査役に大学で政策等を教えられている准教授に審査をお願いしています。



理事長  
空閑浩人

副理事長 青山三智子 上原久輝  
理事 鵜川真悟 小谷智恵  
元木啓雄 吉永裕通  
監事 板橋利幸  
認定 NPO 監査 杉岡秀紀

## 【事務局スタッフ】

事務局は、常勤職員・非常勤職員・アルバイト・ボランティアが様々な立場で事業に携わっています。子育て支援の法人だからこそ、スタッフ個人の「子育て」「家族」がベースであることを大切にし、それぞれの主担当事業の業務だけでなく、全員が全員の業務を補完し合えるように努めています。

### ○職員



事務局長  
小谷智恵



三好英



栗絵美

### ○アルバイト

( ) は、新規事業・イベント時の臨時アルバイト



伊吹睦子

中澤香奈

(小谷祐太・川口紗英子・鷲裕一)

### ○ボランティア ※事務局に常時ボランティアとして登録・活躍

今川麻紀・大槻真理・豊川美夏・永井沙也・小林弘典

※出張学び舎(亀岡)で活躍

北山美由紀・永瀬加奈子

この他にも、毎月のニュースレター発送や交流会でのゲストスピーカーなど、年間を通してたくさんの方にボランティアとして当法人の事業を支えていただきました。ありがとうございました。

## 活動計算書

### 【経常収益】

受取会費		426,000	426,000
受取寄付金	受取寄付金	176,006	
	商品等受入評価益	289,065	
	ボランティア受入評価益	227,642	692,713
受取補助金等	受取助成金	3,401,000	
	受取補助金	6,219,000	9,620,000
事業収益	研修会受講料・研修会テキスト代	1,917,100	
	利用者負担金・保育利用料	262,182	
	講師料	293,000	2,472,282
その他収益	受取利息	19	19
<b>経常収益計</b>			<b>13,211,014</b>

### 【経営費用】

事業費	人件費	2,693,739	
	その他経費	6,020,537	
	商品等評価費用	289,065	
	ボランティア評価費用	227,642	9,230,983
管理費	人件費	1,787,625	
	その他経費	229,972	2,017,597
<b>経常費用計</b>			<b>11,248,580</b>
過年度損益修正損 ※1 キャリアアップ助成金申請漏れ			190,000

当期正味財産増減額	1,772,434
前期繰越正味財産額	△71,486
次期繰越正味財産額	1,700,948

## 貸借対照表

### 【資産の部】

流動資産	現金・預金	1,138,189
	棚卸資産	367,798
	前払費用	162,000
	仮払金	12,300
	<b>流動資産合計</b>	<b>1,680,287</b>
	差入補償金	300,000
固定資産	<b>固定資産合計</b>	<b>300,000</b>
		<b>1,980,287</b>

### 【負債の部】

未払金	252,438
前受金	15,000
預り金	11,901

<b>資産合計</b>	<b>負債合計</b>	<b>279,339</b>
-------------	-------------	----------------

<b>【正味財産】</b>	<b>1,700,948</b>
---------------	------------------

FaSoLabo 京都の事業・活動は、「食物アレルギーの子どもと保護者の QOL（生活の質）の向上」を目的に行っています。これには「当事者支援」と「支援者支援」「社会的理解」3つの支援が大切だと考えています。安心して、継続した支援を行うには、皆様からの資金面でのサポートが大きな力となります。

「フレンズ」は、

「利用者」と運営する「スタッフ」という一方的な関係ではなく、「一緒に活動していく仲間でありたい」という思いを込めて命名しました。実は、他にも「ファミリー」などの名称案も出しましたが、内輪で閉じこもることなく、アレルギーの有無に関係なく仲間の輪を広げていけるようにという思いも込められています。



種別	名称	会費	特徴
正会員		10,000円	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ニュースレターが毎月郵送されます。</li> <li>●FaSoLabo 京都で取り扱っている商品を5%OFFで購入できます。</li> <li>●緊急時安否確認システムに登録できます。</li> <li>●イベントや講座に無料または割引料金で参加できます。</li> <li>●当法人の総会での発言権・議決権を有し、当法人の事業・活動を実施・運営することができます。</li> </ul>
フレンズ	個人フレンズ	3,000円	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ニュースレターが毎月郵送されます。</li> <li>●FaSoLabo 京都で取り扱っている商品を5%OFFで購入できます。</li> <li>●緊急時安否確認システムに登録できます。</li> <li>●イベントや講座に、無料または割引料金で参加できます。</li> </ul>
	団体フレンズ	5,000円 ※イベント参加は1回につき2名まで。	
サポーター	個人サポーター	個人：3,000円～ (以降1,000円単位で任意)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ニュースレターが毎月郵送されます。</li> <li>●寄付金として税制優遇(※)を受けられます。</li> </ul> <p>○イベントや講座の参加や、商品購入に対しての割引はありません。</p> <p>食物アレルギーの子どもと保護者を支援したい！という方向け。</p>
		団体：5,000円～ (以降1,000円単位で任意)	
	企業サポーター	企業：30,000円～ (以降1,000円単位で任意)	
		個人事業主：10,000円～ (以降1,000円単位で任意)	

※FaSoLabo 京都は2017年1月より認定NPO法人となりました。認定NPO法人制度は、NPO法人への寄附を促すことによりNPO法人の活動を支援することを目的としており、下のような税制上の優遇措置を受けることができます。

## 地域のためにできること 寄附という応援のかたち 京都市

京都市では、市民活動を市民が支える社会の構築に向けて、寄附を通した市民の社会参加と寄附を財源とするNPO法人の活動を促進しています。

### 認定(仮認定)NPO法人への寄附者に対する税制上の優遇措置

認定(仮認定)NPO法人とは、NPO法に定める基準に基づき、所得税の寄附金控除等の対象となるNPO法人として所轄庁が認定(仮認定)したNPO法人です。

**国税と地方税あわせて、寄附金額の最大50%が税額から控除されます。**

**所得税額の控除額**  
→(寄附金額-2,000円)×40%

**住民税額の控除額**  
(京都市と京都府がともに条例で指定している場合)  
→(寄附金額-2,000円)×10%

**個人が認定(仮認定)NPO法人に1万円寄附した場合の税額控除例** 「寄附金控除」を受けるためには確定申告を行う必要があります。



あなたも「寄附」というかたちでNPO法人の活動を応援してみませんか。



### NPO法人にとっての寄附とは？

社会の様々な課題の解決に向けて公益活動を行うNPO法人にとって、財政基盤の安定化を図ることは重要な課題であり、特定の財源に依存しない財政面での自立につながる寄附金は、貴重な財源の一つとなっています。

詳しくは、「京都市自治会・町内会&NPOおうえんポータルサイト」を御覧ください。

京都市 NPO おうえん [検索](#)